



発行所
一般財団法人滋賀県遺族会
滋賀県大津市におの浜4丁目2-34
滋賀県遺族会館
電話 (077)522-7227
FAX (077)522-7233
発行責任者
滋賀県遺族会会長
大長 弥宗治

平成30年度滋賀県遺族会新体制発足

新会長に大長氏選出

滋賀県遺族会は、5月21日、滋賀県遺族会館で理事会・評議員会を開催し、平成26年度に松井尚之元会長から引き継いで、2期務めた岸田孝一会長の勇退により、後任に副会長の大長弥宗治氏を選出した。

今年度は役員改選期にあたり、2期4年間会長を務めた岸田孝一氏が勇退し、顧問に就任。後任に副会長の大長弥宗治氏が就任した。

大長新会長には、次世代への継承を中心に捉えた次代に見合った事業の推進等諸問題に尽力願うも

「平和」という二文字を残していただき、この心を心としてしっかりと受け止め、戦争の風化を防ぎ、平和な世の中にしていくという

岸田前会長並びに大長新会長のメッセージおよび副会長5氏から就任にあたっての抱負が寄せられた。(広報 川合 良雄)



新会長メッセージ
滋賀県遺族会会長
大長 弥宗治

この度、岸田孝一会長の後任として、理事会のご推挙により滋賀県遺族会第9代の会長に就任いたしました。副会長を3期6年務めさせていただきますが、責任の重さは全く違います。もとより浅学非才の私ですが、

先の大戦で英霊となられた方々からは、尊い命を犠牲にして、二度とふたたび忌まわしい戦争の惨禍を繰り返すことのないようにと、

遺族会の取り組みべき課題は二つあります。その一つが財政事業改革の取り組みであります。私

の会長を務めて参りました。平成30年2月21日に、財政事業改革(案)の最終答申を委員会として岸田孝一会長に提出し、第207回の理事会で承認されました。なお、平成29年度末の中間答申が反映され、例年900万円の赤字補填が、150万円まで縮小されました。そして、第208回理事

立規程も承認をいただき、次世代活動に対する財政基盤の確立を目指すこととなりました。二つ目は、先の大戦において、国の繁栄と家族の安泰を願

を頼むと託された私たち戦没者遺児の責任であります。幸いにして、滋賀県遺族会では、平成29年3月に青年部が発足し、組織体制も徐々に確立されてきました。活動も自らの研修と次世代戦跡訪問事業への参加等、活動の輪が広が

がなすべき事は、英霊顕彰と平和の尊さをしっかりと次の世代に繋いで行くことであり、ご遺族を始め関係者のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。結びになります。ご遺族皆様のご健康、ご多幸を心から祈り申し上げます。就任の挨拶といたします。

前会長退任挨拶



滋賀県遺族会前会長
岸田 孝一

長を辞させていただくに当たり、お礼を申し上げます。私のような浅学非才な身であるにもかかわらず、遺族会の会長をお受けしたことは、日を追うごとに身に余る光栄と、感謝の気持ちでいっぱいです。私が遺族会とかかわることになったのは今から45年前になります。母は町の遺族会役員をしていました。元氣な姿を見て、「動けなくなったら、代わって遺族会のことを引き継ぐから、それまでは頑張ってくれたら」と言っており

新体制で次なる歩みを

「二軒で二人の会員か」と言いましたが、事務局から遺族会の事業や役員会の連絡があると、都合のつく限り出席させていたできました。そこで感じたことは、亡くなった戦没者からすると、立場によって活動が違って良いのだ、違っても当然なんだと思ひ、現在に至っています。今、私は心から幸せ者だと思っております。私には市内や県内は勿論、大きくは国内にも共通の環境で育ってきた多くの仲間がいます。それは、一つしかない尊い命を、形を変え後継者に残してくれた、父の目に見えない財産である、と、より強く思った4年間でありました。会長を辞するにあたって何よりもありがたいのは、大長弥宗治新会長に受けていただいたことであり、山川芳志郎、井上亮一、藤澤喜八郎、木津美智子、森田久隆各副会長さんと新体制で、次なる歩みを始めてくださいますこと。心より感謝申し上げます。私のような者をお支えくださった皆様へ感謝いたしました。退任のお礼とさせていただきます。

平成30年度滋賀県遺族会の主要事業計画

時期	事業名	備考
30年4月5日	滋賀県護国神社春季例大祭	滋賀県護国神社
5月12日~14日	沖繩「近江の塔」平和祈念戦没者追悼式	沖繩摩文仁の丘 他
5月21日	理事会、定時評議員会	滋賀県遺族会館
6月22日~24日	第57回沖繩平和祈願リレー行進	沖繩県糸満市
8月13日~15日	第42回みたま祭	滋賀県護国神社
8月15日	全国戦没者追悼式参列(政府主催)	日本武道館
8月15日	合同会議	滋賀県護国神社
8月25日	平和祈念・県下戦没者追悼式(滋賀県主催)	滋賀県立文化産業会館
9月下旬	皇子山陸軍墓地慰霊碑の彼岸法要	大津市皇子山
	滋賀県戦没者英霊塔の彼岸法要	膳所公園
9月下旬	理事会	滋賀県遺族会館
9月27日~28日	日本遺族会第3ブロック会議	奈良県
9月30日	滋賀県戦没者遺族大会	守山市市民ホール
10月5日	滋賀県護国神社秋季例大祭	滋賀県護国神社
10月12日	女性部研修会	滋賀県立男女共同参画センター
10月20日~21日	青年部研修会	鹿児島県(知覧)
11月22日~26日	海外戦跡慰霊巡拝	パラオ

時期	事業名	備考
30年12月2日	理事会	滋賀県遺族会館
	合同会議、国会議員・県議会議員とのつどい	アヤハレクサイドホテル
12月14日	日本遺族会戦没者遺族大会	自由民主会館
	国会議員陳情運動	
12月31日~31年1月1日	除夜祭、元旦祭	滋賀県護国神社
31年1月10日	新年祈願祭	滋賀県護国神社
31年2月9日~14日	海外戦跡慰霊巡拝	フィリピン
3月17日~18日	第45回靖国神社昇殿参拝旅行	靖国神社・磯部温泉 他
3月中旬~下旬	理事会	滋賀県遺族会館
3月下旬	次世代戦跡訪問研修	鹿児島県知覧
随時	県各市町要望活動	県庁・各市町 他
随時	各郡市町遺族会会長会議	滋賀県遺族会館
年3回	「遺族の友」発行(6月、10月、1月)	
毎月15日	滋賀県戦没者英霊塔月並法要	膳所公園 ※
	正副会長会議	滋賀県遺族会館
随時	海外戦跡慰霊巡拝写真展	随所

※8頁の平成30年度滋賀県戦没者英霊塔月並法要の各郡市参列計画参照

副会長挨拶

次世代への継承が風化を防ぐ

副会長 山川 芳志郎



この度、はからずも副会長に選任されました。もとより

り浅学非才で副会長に値するか不安ですが、推挙された限り力いっぱい取り組みたいと思っております。よろしくお願ひします。

私がかねがね遺族会の責務は次の4点と考えています。

①英霊への慰霊
②正しい情報提供による戦争の風化防止

③遺族への処遇改善
④仲間のきずな増強

①と②についてももう少し私の考えを述べます。

日本列島のどこかで毎年風水害が起こり、人が生き埋めになったりすることがあります。この時、最後の一人を発見するまで、自衛隊や消防団の人々が昼夜を問わず捜索されます。当たり前ですが、その家族にとってはかけがえのない人であり、人格を持ったひとりの人間ですので、地域をあげて全力で捜索されるのです。

では、私たちの父や伯父が戦死した場合はどうでしょう。国の命令で赤紙一枚で戦場に送られ戦死しています。戦死者一人ひとりを捜索し、私たちの手元に連れ戻してほしいと思います。しかし、これはかなわぬ道理です。でも私たちにとってはかけがえのない父であり伯父であります。そこであれば遺児である私たちがせめて戦跡に赴き、戦死したであろう土地でそれなりの弔いをすべきだと思います。

それもままならない場合は家庭で地域で、戦死された人を弔うのが本道と考へます。

自宅や病院でそれなりの治療や手当を受けて亡くなり、儀式に従って葬送するのと、戦場で治療や手当なしで苦しんで亡くなったのでは訳が違います。戦場で倒れ、死に直面した時、父や伯父はどんなことを思っていたのか、この文を書いていよう。この文を書いていても涙が出そうです。「山川さん、いつまで遺族会続けるのですか」と聞かれます。私は「父を家に連れて帰るまで続けます。そうでないとかわいそう過ぎます」と答えています。

②の戦争の風化防止について述べます。戦後生まれの人

が80%を超えたと聞きます。今日の平和と豊かさは当たり前と考へる人が大多数を占めます。人と人との殺し合いのむごさ、人生に大きな夢を持つていたであろう父や伯父を無理やり戦場に送り、結果戦病死。この無念さは計り知れないものがあります。また、残された私たち家族の貧しさ、寂しさ、これらを考へるとき何としてもこの不幸な戦争は避けなければなりません。

戦争は人が起こすものです。また、平和や豊かさも人が作り出すものです。だから、あの惨い戦争の生々しさを語り部さんや映像を通して今風に社会に訴え、風化を防止したいと思ひます。しかし、正しい情報のもとで行いたいと思ひます。

御霊が残した「平和」を次世代へ繋ぐ

副会長 井上 亮一



若葉を満喫する好季節になりました。各位におかれましては日々のお仕事に精励され、ますますご健勝でご多幸のこととお慶び申し上げます。

この度、大長弥宗治会長の下で副会長を務めることとなりました。もとよりそのような重責を担う器ではありませんが、滋賀県遺族会が抱える難局を乗り越え、英霊顕彰を続けるべく引き受けさせていただきます。戦後73周年を迎えようとして

えませんが、いかがでしょう。今一つ、これからの日本を背負って立つ小・中・高生に「戦争と平和」というテーマで毎年作文募集をしてはどうかと考へます。今後とも、ご理解とご指導、ご協力をお願いいたします。

今期も英霊顕彰行事目白押し

副会長 藤澤喜八郎



会員の皆様方には、平素は数々の遺族会活動に對しまして、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

今回の役員改選に伴い、引き続き副会長の要職を命じられました。前期同様よろしくお願ひ申し上げます。

戦後73年となり、戦後生まれの世代が80%を占める現在、あの忌まわしい戦争の記憶はだんだんと薄れようとしています。滋賀県遺族会員の高齢化に伴い会員が減少し、今後の遺族会運営が難しく、この先どうなるか懸念される

ところでありますが、幸いにも当会においては、一昨年に青年部の組織が立ち上がり、現遺族会の後継者として意欲的に活動を開始されました。私たちが会員にとりましては大変嬉しく、青年会員の皆様に對して、今後尚一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

毎年恒例の滋賀県護国神社の「みたま祭」が8月13、15日に実施されます。大勢の参拝者が訪れるお祭りとなりませう。ご協力の程よろしくお願ひ申し上げます。

募集をしてはどうかと考へます。今後とも、ご理解とご指導、ご協力をお願いいたします。

私たち遺族の大事な使命

副会長 森田 久隆



この度の役員改選で副会長に選任されました。何分にも浅学非才な私ですが、皆様のご指導とご支援よろしくお願ひいたします。

滋賀県遺族会も高齢化が進み、特別会員の激減と一般会員の減少により深刻な財源不足になっております。また戦後73年となり、戦争を知らない人たちが80%を占め、戦争が風化されつつあります。

私たちが遺族会の一番大切なことは、英霊顕彰だと思ひます。天皇、皇后両陛下が平成27年、28年にパラオ、フィリピンの激戦地を慰霊されました。

また、平成28年11月には、三日月大造滋賀県知事が滋賀県遺族会巡拝団とともにフィ

ているところでございます。会員皆様のご支援ありがとうございます。

今期は、女性部会担当として微力ではありますが、皆様の英知をいただきながら与えられた責務を果たす所存でございます。皆様のご指導をよろしくお願ひいたします。

さて、一年後には時代の節目、平成が終わろうとしてい

ます。今上天皇陛下が退位され、新たな元号が発表されます。「昭和」は、ますます遠くなることでしょう。でも「昭和」は、ただの歴史のページに終わらせてはならないと、強く感じております。

戦争の歴史を繰り返さない

副会長 木津 美智子

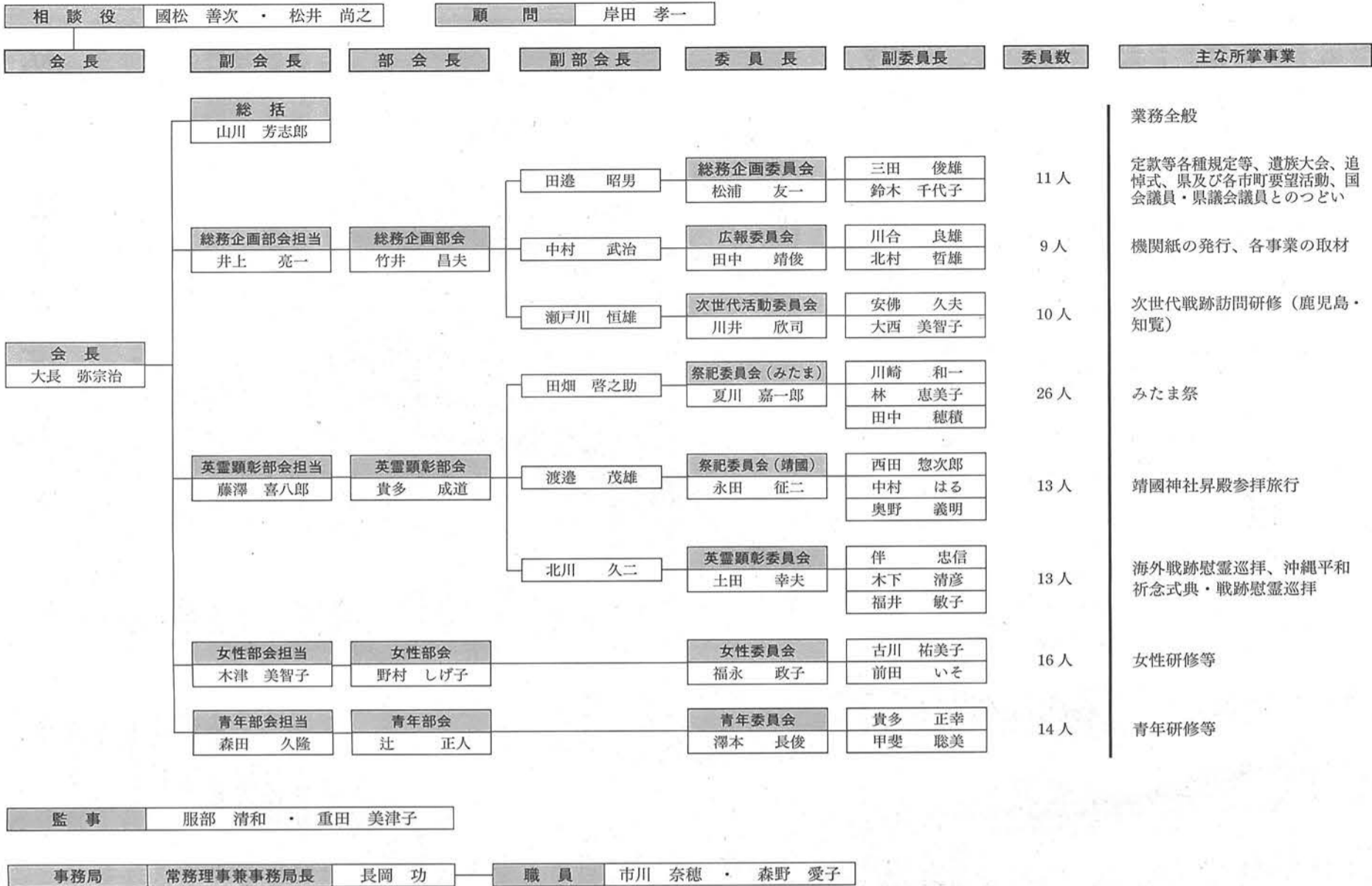


この度、役員改選により、引き続き副会長の重責をお受けすることとなりました。

前期は、青年部会を担当させていただきました。昨年度は、日本遺族会青年部が結成され、滋賀県遺族会青年部も徐々に活動を始めており、頼もしく感じ

忘れてはならない大切な日は6月23日の「沖繩慰霊」8月6日の「広島原爆投下」8月9日の「長崎原爆投下」8月15日の「終戦」の日です。あらためて、悲惨な戦争のこと、その歴史を二度と繰り返さないこと、祖国の安泰を念じつつ散華された英霊の尊い犠牲の上に成り立っていることを決して忘れることなく、志を固くし、平和な社会と英霊顕彰に一層精進と努力をして参りたいと思っております。今後とも皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成30~31年度 滋賀県遺族会 組織図



滋賀県遺族会 役員名簿

評議員名簿 (任期：平成28年度～4年間) 平成30年度補欠選任

市町名	氏名	市町名	氏名	市町名	氏名
大津市	佐敷 靖夫	甲賀市	大治 正雄	彦根市	北村 邦夫
	小林 俊造		倉田 紘一郎		中村 正
	西村 一夫		北澤 幸七	長浜市	瀧澤 吉興
高島市	藤本 勳	近江八幡市	岡田 伴之		脇坂 博
	一井 久雄		杉浦 俊雄	西川 満	
草津市	伴 忠信		福島 睦一	北村 哲雄	
守山市	岡田 明彦	東近江市	川戸 健一	桂田 孝子	
	北川 正一		福島 和彦	豊郷町	久木 淳行
栗東市	山元 新一郎	日野町	瀬川 勲	甲良町	上野 正之
野洲市	川波 慶一	竜王町	横田 勝弘	多賀町	小菅 正之
	木村 和代	愛荘町	西村 久一		
湖南市	西岡 建己		森野 久嗣		

理事名簿 (平成30年度～31年度)

ブロック	郡市名	氏名	役職名
1	大津市	田邊 昭男	総務企画部会副部会長 (総務企画)
		田中 靖俊	広報委員会委員長
2	高島市	竹井 昌夫	総務企画部会長
	草津市	川井 欣司	次世代活動委員会委員長
	栗東市	野村 しげ子	女性部会長
	守山市	山川 芳志郎	総括副会長
	野洲市	永田 征二	祭祀委員会 (靖國) 委員長
	湖南市	中村 武治	総務企画部会副部会長 (広報)
3	甲賀市	田畑 啓之助	英霊顕彰部会副部会長 (祭祀・みたま)
		渡邊 茂雄	英霊顕彰部会副部会長 (祭祀・靖國)
	近江八幡市	井上 亮一	総務企画部会担当副会長
4	東近江市	藤澤 喜八郎	英霊顕彰部会担当副会長
		松浦 友一	総務企画委員会委員長
	蒲生郡	貴多 成道	英霊顕彰部会長
	愛知郡	土田 幸夫	英霊顕彰委員会委員長
4	彦根市	夏川 嘉一郎	祭祀委員会 (みたま) 委員長
	長浜市	森田 久隆	青年部会担当副会長
		木津 美智子	女性部会担当副会長
	米原市	大長 弥宗治	会長
	瀬戸川 恒雄	総務企画部会副部会長 (次世代)	
	北川 久二	英霊顕彰部会副部会長 (英霊顕彰)	
青年部	辻 正人	青年部会長・日本遺族会青年部長	
常務理事	長岡 功	事務局長	

各郡市町遺族会 会長・女性部長・青年部長名簿 (平成30~31年度)

市町名	氏名		
	会長	女性部長	青年部長
大津市	服部 清和	古川 祐美子	辻 正人
高島市	一井 久雄	北川 敏子	澤本 長俊
草津市	木村 正昭	重田 美津子	久保 博
守山市	山川 芳志郎	石井 ひろ子	林 祐美子
栗東市	高井 宏彰	川崎 治枝	甲斐 聡美
野洲市	永田 征二	木村 和代	三久保 忠俊
湖南市	大継 義光	長谷川 あさ子	高畑 久良
甲賀市	渡邊 茂雄	富川 千鶴子	松下 泰也
近江八幡市	高木 健三	辻 成子	岡村 紀生
東近江市	松浦 友一	中澤 光子	辻 和雅
彦根市	夏川 嘉一郎	島路 トミ子	川崎 謙次
長浜市	西川 満	福永 政子	浅見 勝也
米原市	瀬戸川 恒雄	田中 美恵子	木部 弘美
蒲生郡	西村 久一	—	—
(竜王町)	堀井 平治郎	古株 米子	貴多 正幸
(日野町)	奥野 義明	—	村島 茂男
愛知郡	—	—	—
(愛荘町)	珠久 清次	前田 いそ	久保田 正利
犬上郡	北川 久二	—	—
(豊郷町)	藤野 恵津子	—	—
(甲良町)	藤原 勝義	—	—
(多賀町)	北川 久二	杉江 弘子	—

次世代戦跡訪問研修

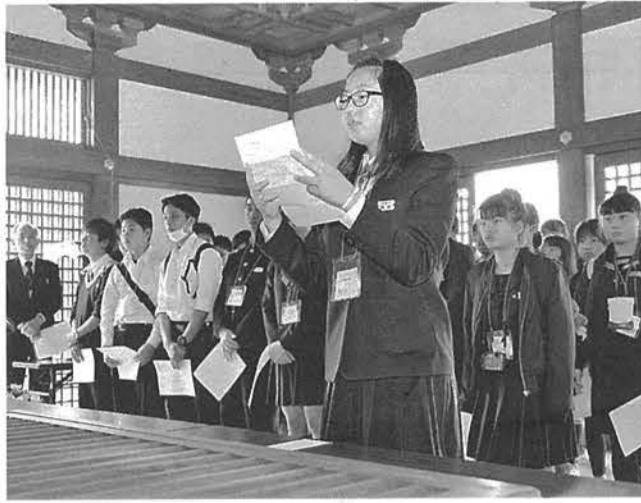
私たちが平和な世界をつくる

守山市立明富中学校3年

麻中 要

私は3月に、鹿児島方面の次世代戦跡訪問研修に参加し、特攻を中心に学びました。滋賀県に住む私にとって特攻はあまり馴染みがないものでした。

しかし、今回の戦跡訪問研修で、八日市飛行場で特攻の訓練が行われていたことや、比叡山に「桜花」の発射基地が作られていたこと、特攻隊員の中には滋賀県出身者が何人もいたことを知り、特攻を身近に感じることができました。



特攻平和観音堂での慰霊祭で追悼の言葉を述べる、麻中要さん

鹿児島では主に、特攻に関する戦跡や施設を訪れました。それらの見学を通して分かった特攻のむごさに愕然としました。その中でも特に印象に残っているのは、私とそう歳の変わらない4人の特攻隊員たちの写真です。翌日出撃する彼らは、明日死ぬと分かっているが、死への恐怖や悔しさを一切感じさせないとても良い笑顔で写っています。

戦争は二度とごめんだ

栗東市立葉山東小学校6年

尾上 康太郎

「セタセタセタッー」我、戦艦に突入す。地下壕電信室にモールス信号が鳴り響く。これは、特攻部隊からの暗号だ。特攻部隊は、兵士一人ひとりの精神力を武器として、爆弾を積んだ戦闘機で敵の艦船に体当たりし、沈める任務を行った。日本のために、命をささげるのだ。今では考えられないことだ。つまり特攻作戦とは、「死ぬ、亡くなる」という条件の作戦だ。

ぼくは、こんな作戦が行われていたと知って、絶対にあってはならないと強く思った。

この研修で、当時特攻に行った人についての話を聞いた。その人の将来の夢は、教師だった。試験にも合格して赴任先も決まっていたが、飛行部隊に参加することになったらしい。自分の夢の仕事をやるよりも国のために戦わなければならぬと、ぼくなら、我慢できないと思う。また、戦いが続いていくと、高校生までもが戦争に行かなければならない状況

になっていく。未来ある若者が、「お国のために」なんて言って死ぬことがないように、未来を担う私たちが、平和な世界をつくりたい。平和な世界には、戦争の犠牲者や被害者はいません。平和な世界には、戦争の犠牲者や被害者はいません。平和な世界には、戦争の犠牲者や被害者はいません。



鹿屋地下壕第一電信室の説明を聞く、研修に参加の皆さん

「戦争の記憶が遠ざかる時、戦争がまた私たちに近づく」。今を生きるぼくたちの使命は、これらの方の想いを受け止め、二度と戦争を起こさないということだ。昔の人が経験した戦争の恐ろしさや残酷さをしっかりと胸に刻み、後世に伝え、生きていきたい。そして、日本だけではなく、世界の人々も安心して過ごせる平和な世の中にしていかなければいけないと思う。



特攻平和観音堂で記念写真

ていました。あまりにも明るい表情に驚きました。特攻隊員の遺書には、両親や弟妹たちの健康と長寿を願ったり、アメリカ軍を討つという強い決意がこめられていたりして、とても胸が痛みました。

私は、今年高校生になりました。特攻隊員の最年少は17歳なのに、もしも自分が特攻隊員だったら、と考えてみました。私なら最期まで笑顔でいるなんて無理です。「死ぬのが怖い」「まだ死にたくない」。きつそう思うでしょう。そして、その気持ちは特攻隊員たちも同じだったのではないのでしょうか。

これから先、未来ある若者が、「お国のために」なんて言って死ぬことがないように、未来を担う私たちが、平和な世界をつくりたい。平和な世界には、戦争の犠牲者や被害者はいません。平和な世界には、戦争の犠牲者や被害者はいません。平和な世界には、戦争の犠牲者や被害者はいません。

主の特攻隊について学んだのですが、特攻隊員の胸の中にある思いを考えると胸がはち切れそうでした。どんな思いで特攻に臨んだのか、どんな思いで家族や親戚、友人のことを思ったのか、そして、どんなことを考えながら未来の私たちのことを思ったのか。考えれば考えるほど胸が締め付けられます。

実際に使っていた道具や住居、戦闘機、実際に本人たちが書いた手紙や遺書。これらを見ることで当時の人の思いや考え、行動を知ることができました。これらは、これは実際に見て、聞いて、体験した人しか分からないと思います。だからこそ私は貴重な体験ができ、本当によかったと思いました。

今回の研修からさまざまなことを学ぶことができました。戦争を二度としないことはもちろん、戦争によって多くの尊い命が失われたこと、そこには若い人たちがたくさんいたこと、自分の将来のことや自分の行動そのものが戦争によって制限され、自由にできなかったこと。このことから私は思いました。戦争を再び繰り返してはならないと。今回、私はたくさん学ばせていただき、知り、考えることができました。しかし、今の時代、戦争を体験したことがない人が80%を占めているとも言われています。だからこそ、今回学んだことを今度は自分が伝える側だということを自覚し、私が学んだこと、体験したことを周りの人たちに伝えていきたいと思えます。

学んだことを伝える側に

彦根市立彦根中学校3年

相田 康宏

今回の研修で私は、戦争は二度と起こしてはならないと再確認することができました。以前から戦争はしてはいけないという事は十分承知していましたが、しかし、聞いたことはあっても見たことも体験したこともない私は、どこか戦争という事を他人事のように感じていました。だから、今回学んだことは私にとってすごく衝撃的でした。

今回の研修からさまざまなことを学ぶことができました。戦争を二度としないことはもちろん、戦争によって多くの尊い命が失われたこと、そこには若い人たちがたくさんいたこと、自分の将来のことや自分の行動そのものが戦争によって制限され、自由にできなかったこと。このことから私は思いました。戦争を再び繰り返してはならないと。今回、私はたくさん学ばせていただき、知り、考えることができました。しかし、今の時代、戦争を体験したことがない人が80%を占めているとも言われています。だからこそ、今回学んだことを今度は自分が伝える側だということを自覚し、私が学んだこと、体験したことを周りの人たちに伝えていきたいと思えます。

過ち繰り返さない努力を

滋賀県立大津商業高校3年

北村 大和

私は中学時代から戦争について興味があり、特に「特攻」について深く学習したいと思ったため、今回の研修に参加させていただきました。

まず、万世特攻平和祈念館では特攻隊員の方の遺書や遺品がたくさん展示されていました。そして祈念館の方のお話から、たくさんの方の学ぶことができました。祈念館の外にあるブロンズ像は東の方角に向けてあります。それは、特攻隊員の方が「東京の靖國で会えるように」「自分の故郷を見れるように」という意味があるそうです。

また、特攻の燃料は600kgの満タン。なぜかという、敵艦に体当たりしたときに被害を大きくするためにそうです。「燃料は満タン、特攻隊員の命は片道分」と祈念館の方がおっしゃっていたのを今でも覚えています。私が万世特攻平和祈念館で特に印象に残っているのは、祈念館の方が眼に涙を浮かべながら私たちに話してくださいました。特攻隊員の方が書かれた遺書を読んでくださったときや、遺品の説明をしてくださったときに涙されている姿を見ると、本当に戦争は悲惨なものだと感じました。

次に、知覧特攻平和会館に行きました。知覧は本土最南端の特別攻撃隊の出撃地です。そんな知覧特攻平和会館には、万世特攻平和祈念館よりはるかに多くの遺書や遺品が展示さ



特攻出撃前に隊員が過ごした三角兵舎見学

れていました。三角兵舎という特攻隊員の宿舎も再現されていました。知覧では遺書や遺品から多くの悲しみや特攻へのやる気を感じ取れた気がします。ほとんどの遺書の文末には「元気で帰ってきませぬ」や「必ず敵艦を撃沈してみせます」と書いてありました。また「母」という文字も多く見られ、やはり自分を産んでくれた母あてが多かったです。今回の研修で「日本の特攻作戦は本当に必要だったのか」また、「特攻を半強制的に志望させる当時の日本社会への憎しみ」を感じました。私たちは戦争の悲惨さを常に考え、今後二度と同じ過ちを繰り返さないよう努力するべきだと思います。

戦争の記憶 語り継いで

次世代活動委員会 副委員長 安佛 久夫



ホテル館 富屋食堂前で研修に参加の皆さん

ものどと思っています。平和を作るために、未来を担う私たちこそが、戦争の悲惨さや、恐ろしさを学び、語り継いでいかなければならないと思います」と語りかけました。参加者一人ひとりが献花を行い、慰霊式典の最後には全員で「ふるさと」を合唱しました。この観音堂で歌う「ふるさと」は、万感の思いがこみ上げ言葉に詰まり、涙がこみ上げてくるのを抑えられませんでした。

詩人、石垣りんさんは、その詩集「弔辞」の中で、「戦争の記憶が遠ざかるとき、戦争がまた私たちに近づく、そうでなければ良い」と。

平成29年度の次世代戦跡訪問研修は、青年部4人の参加協力を得て意義深い研修となりました。志布志港からの研修地は、何処も満開の桜で私たち一行を迎えてくれました。研修地における語り部の皆さんが語ってくださる「命の尊さ」「戦争の悲惨さ」は、「語り継ぐべきこと」として研修する一人ひとりの心に響きました。

知覧特攻平和会館、特攻平和観音堂で執り行った「慰霊祭」。大長宗治団長は、式辞の中で「戦争がいかに悲惨であり、平和の尊さや命の大切さを『見て・聞いて・知る』ことにより、二度とふたたび戦争を起こしてはならないことを心に留め」と述べられました。続いて参加者を代表して、守山市立明富中学校3年麻中要さんは、追悼の言葉として、「私は、平和は願うものでなく、作る

花」すること。ホテル食堂で語っていたいた若き特攻兵士のこと。等々は、「体験」とまではいかなくとも、戦争は「悲惨極まりない、絶対にあつてはならないこと」と、非人間的なむごさを感じたことと思います。語り継いでく

子どもたち、一心に耳を傾け

青年委員会 副委員長 貴多 正幸

去る3月24日から26日にかけて、17回目を迎える鹿児島方面へ次世代戦跡訪問研修に初めて参加させていただきました。以前から、当地へ赴きたいと思っていましたので、念願がかなったことの喜びと、自分自身の目で見たいこと、聞いたこと、感じたことを受け止められるか、また感じたことをどのように伝えていけるかなど、プレッシャーに似たいろいろな思いがありました。もう一つ、一緒に研修させていただく子どもたちを引率するという大きな役割があつたことも私にとって大きな勉強となりました。

特に、万世特攻平和祈念館では、万世特攻慰霊碑「よろずよ」に込められた思いを聞かせていただいたとき、館内で特攻隊の方たちが最後のメッセージとして遺された「血書」を見たときは、胸が締め付けられる感じがしました。また、子どもたちも語り部の方の話に一心に耳を傾け、散華された方々の遺影や遺品を前にし、真剣にメモを取りながら、たった73年前にこの日本で実際に行われた出来事だと理解し、「戦争は絶対にしてはいけない」「今の平和のためにたくさんの方の犠牲があつた」などの話をしてくれたことは、私のプレッシャーなど一気に払拭してくれる素晴らしい子どもたちでした。最後になりましたが、この事業に関わりを持ってくださった皆様方に心よりお礼を申し上げます。今後もこの事業を続けてくださることを切にお願い申し上げます。報告並びにお礼の言葉とさせていただきます。



万世特攻平和祈念館前で慰霊碑「よろずよ」の説明を聞く

日本遺族会青年部長の任に就いて

歩みを継続していく
青年部組織づくり

青年部会長 辻 正人



日本遺族会女性部・青年部合同研修会及び青年部総会

日本遺族会青年部総会で青年部長に就任した辻正人氏（中央）
右に水落敬栄日本遺族会会長

この度、平成30年2月18日開催の日本遺族会女性部・青年部合同研修会及び青年部総会において、日本遺族会青年部長の大任を引き受けることとなった。かつて存在し、発展的解消を遂げた青年部とは時代背景や存在意義が全く違う。新生青年部。我々に今求められることは、現状の遺族会活動に極力参加し、まずは「知る」ことである。そして、「深く知る」として、「不易と流行」を見極め、「変化を恐れず、歩みを継続していく青年部組織づくり」を目指し活動していくことが重要であると考える。

では27支部、結成予定支部が9という状況である。当日の青年部総会は参加者71人で、青年部の名称確認、役員人事、青年部規約の検討と今後の青年部事業の柱について議論を重ねた。各支部青年部員の「思い」もあり、白熱した議論となった。今、まさに職場や社会では中心的存在であり、ものの見方、考え方においてそれぞれの主義・主張があるので当然のことである。言い換えれば、それだけの思いがあり、遺族会活動に取り組もうとしていることが非常によくわかった総会であった。その甲斐あつてか結果的には良い方向性が見出せたことをこの文書を通してお伝えしておく。

最後に、今後とも青年部のみなさまのご理解、ご協力並びに遺族会のみなさまのご指導、ご鞭撻をお願いし、今回の報告とさせていただきます。

女性部研修会 平成29年10月11日
英霊の御心に触れ (その2)
◆◆松本聖吾靖國神社権禰宜の講演を拝聴して◆◆
滋賀県遺族会 評議員 彦根市 中村 正

あふれる情報の中で

今回は、老い行く私たちが英霊に
応える義務を果たすため、社会に絶
大な影響力を持つ報道機関の報道に、
英霊の御心を意識しつつ、日頃から
その有効利用に心がけようという提
案をします。

研修会で、考えの違う相手を「洗脳されている」と断じる方たちの話がありました。私たちは戦後、思想・信条や言論・表現の自由をはじめとする基本的人権を憲法により保障されました。様々な溢れる情報の中で、それぞれの思想や信条を育み、日々の生活や遺族会活動に活かしてきました。そうした日常で、私たちが有益情報を共有できる機会は、今回の研修会のように例外限られています。それ故、溢れかえる日常情報に惑わされないことが極めて大事であると言えます。

和を売り物に勢いづいていきます。その情報が有益か否かは、本人がその都度判断しているわけですが、マスコミ情報等習慣化した情報源の場合には、本人が余程しつかりしていないと、知らず知らずに染められているかも知れません。意図的に発信している情報体の情報ならば、間違いなく洗脳されていると言えましょう。

愛読紙への疑問

洗脳について思い当たる私は、10代の頃から誰もが知る大新聞や、職場での労働組合新聞等の情報を糧として成長してきました。特に、大新聞の「天声人語」欄は大好きでした。また、「真面目過ぎる」責任感・正義感が強すぎる」と、どうにもならない自分に悩みながらも、政治にも強い関心がありました。

老いた今、やるべきことを思う

国内統一こそ不可欠
私たちは、こうしたメディアの影響を大きく受けながら戦後の70余年を生きてきました。今なお、その念願する理想社会の実現は遙か彼方に見えませんが、そればかりか、組織の高齢化・後継者不足に加え資金不足の現状は、礎となられた英霊にお応えすることすら困難な事態です。今こそ、総理大臣の靖國参拝が堂々と果たせるような国論統一が、何んとしても必要です。そうならば、私たちは安心して遺族会活動の使命を次代に託すことができるといえます。

韓国等で我が国糾弾の宝刀とされてい（る）等、腹立たしい事案が国外にも飛び火して、急速に拡大定着しかねない勢いです。二度と読まないこととした大嫌いな新聞ですが、念のため、国会での論戦など気になる事案があると二つの新聞を読み比べます。すると、事実の取り上げ方に明らかに差があります。論調に差があるのは仕方がないとしても、関連する事実であつても気に入らなければ伝えない等、全くメディアらしからぬ意図的報道がなされていると感じます。ペンの暴力とは異なる意図的報道に気づかぬ読者や影響を受ける私たち国民が気の毒です。

アの意図に洗脳されていく仕組みが隠されているのです。さて、私が言いたいことは次のとおりです。私たち戦没者遺族は、英霊顕彰を行動の柱とする恒久平和の実現という崇高な理念のもとに、今日まで頑張ってきました。しかし、その行動力の低下に有効な打つ手がありません。とは言え、これも当然の姿と認めなければなりません。何んとしても平和なこの国の発展を願う英霊顕彰の火だけは絶対に消たくありません。むしろ、より強く輝かせるために思い当たる打つ手を提案します。

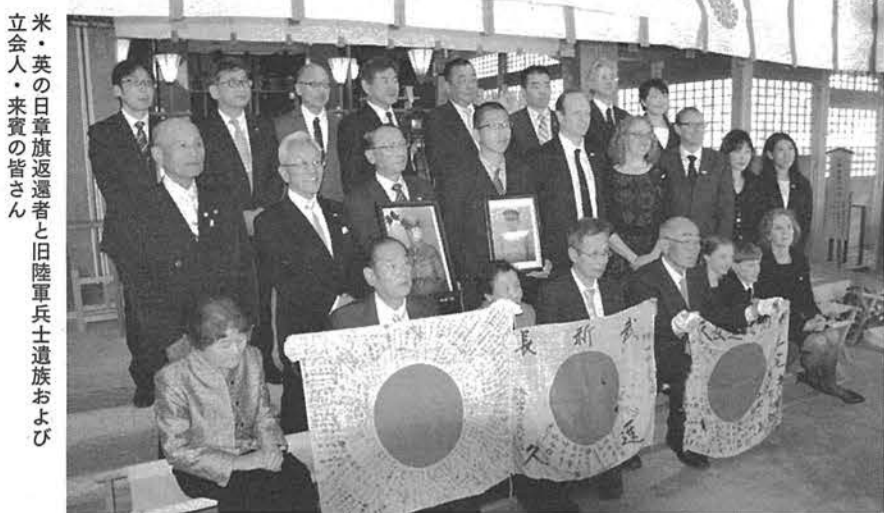
帰ってきた日章旗

滋賀県護國神社で返還式

大東亜戦争で滋賀県から出征した3人の旧陸軍兵士に託され、米国と英国の元兵士が戦利品として持ち帰った日章旗3枚をそれぞれの遺族へ返還する式典が4月5日、滋賀県護國神社で開催された。

日章旗が一度に3枚帰ってくるのは初めてのことである。

3人の兵士は、長浜市出身でフィリピン・レイテ島で戦死した三宅孝雄さん(享年22)、東近江市出身でインドで戦死した中嶋康平さん(同25)、日野町出身でフィリピン・ミンダナオ島で戦死した中野義良さん(同28)。



米・英の日章旗返還者と旧陸軍兵士遺族および立会人・来賓の皆さん

日の丸には出征前、親族や友人らが無事を願い、自分の名前や「折武運長久」などと寄せ書きを手渡している。日章旗を持ち帰った米国と英国の遺族らが、旧日本兵の遺品の返還活動に取り組み米国の団体「OBONソサエティ」(以下「OBON」という)を通じて、返還を申し出ていた。兵士の名前はあるが住所の記載はなく、滋賀県遺族会に身元特定の協力を呼びかけていた。

返還式典は、藤澤喜八郎滋賀県遺族会副会長の司会で進行。岸田孝一会長は開会のあいさつで、「遠いアメリカ、イギリスから日章旗をお持ち寄りいただいたことを感謝申し上げます。公務大変お忙しい中、三日月知事、奥村県議会議長、そしてこの運動に多大なご尽力をいただいている参議院議員の有村治子先生にも立会人としてこの場にいらしていただき、ありがとうございます。何よりの感謝でございます。こういことが全国で行われることを私たち遺族は願っています」と述べた。

國松善次相談役が日章旗返還までの経緯の説明と、米国と英国の返還者と関係遺族の紹介を行い、返還へと進んだ。

返還式には、「OBON」の共同代表レックス&敬子ジーク夫妻と米国人で英国在住のジェニファ・トリップさん(42)が家族と一緒に出席した。

トリップさんの祖父はミンダナオ島に出征した米陸軍兵。祖父は2009年に亡くなったが、遺品整理をしていて中野さんの日章旗が見つかった。トリップさんは、中野さんの甥の中野良造さん(63)に手渡した。その後、のあいさつで、米潜水艦にいた大祖父が日本の駆逐艦に攻撃され亡くなったことと触れ、「家族を失う痛みを知っている。今日は友情の証

しとして返還に来た」と述べ、良造さんは「持ち帰って仏壇に供えたい。伯父も生家に戻って喜ぶと思う。多くの旗が遺族に戻ることをお願いしたい」と応じた。

「家宝として大事にします」と中嶋さんの甥にあたる中嶋昭治郎さん(75)は、英国人のアンドリュ・クレアさん(54)から受け取った。クレアさんは約35年前、英国の古物店で売られていたのを見つけた。昨年秋に購入した。昨秋に「OBON」の存在を知り、返還を申し出た。「大事な寄せ書きの丸をお返しする」と流暢な日本語で述べた。

三宅さんの日章旗

は、「OBON」に匿名で送られてきて保管されていた。OBON共同代表のレックス・ジークさん(64)から受け取った三宅さんの実弟の信雄さん(81)は「寄せ書きは、勤務先の先輩や友人がしてくれたものだと思う。旗だけでも日本に帰りたい、と兄は神仏に願ったのではないかと涙ぐんだ。

最後に、立会人として出席の三日月大造滋賀県知事、小椋正清東近江市長、藤澤直広日野町長、奥村芳正滋賀県議会議長、有村治子参議院議員から祝詞が述べられた。感動の日章旗返還式であった。

(広報 川合 良雄)



多賀大社舞姫による「浦安の舞」の奉奏

4月5日、桜花満開の下、盛大に齊行開の下、滋賀県護國神社春季例大祭が盛大に齊行された。

戊辰戦争から大東亜戦争までの滋賀県関係の戦没者3万4千余柱を祀るご縁で、早朝から滋賀県選出の国會議員秘書、滋賀県議會議員、彦根市議會議員など、多数の来賓をはじめ、県内各地から大勢の遺族会会員が参列した。

当日は、祭典終了後、日章旗返還式が行われることから、境内には米国人のトリップ夫妻とその息子と娘、英国人のクレア夫妻や「OBONソサエティ」共同代表のジーク夫妻の姿が見られた。また、各社報道関係者もかけつけ、いつもと違った雰囲気があった。

まず、山本賢司宮司が祖国の弥栄と、とこしえに揺るぐことのない世界平和を祈願した。

岸田孝一滋賀県遺

族会長は「先の大東亜戦争が終結して73年となる。あのような悲惨な戦争は二度と起こしてはならない。どんなことがあっても繰り返してはならない。戦争の愚かさを体験した私たち遺族は、あとに続く人たちに語り伝え、残していかなければならない」と祭文を奏上。

続いて、多賀大社舞姫による「浦安の舞」が奉奏された。次に、来賓、関係者による玉串奉奠が行われ、最後に靖國神社、各地の護國神社等からの祝電、祝詞の披露があり、春季例大祭は滞りなく終了した。

(広報 川合 良雄)



牛を使って田を耕す若い頃の静栄さん



村井 静栄さん (102歳・東近江市)

おかあさんを訪ねて

毎年女性部さんからの暑中お見舞いありがとうございます。農家の一人娘として生まれ、あまり苦労らしい苦労も知らず、幸福と言う言葉そのままの内に娘時代を過ごしております。

俺が戦死した時、終生俺の妻でいて欲しい

昭和16年4月19日、5年前既に婚姻しており夫と結婚式を挙げました。海軍に入隊し、支那事変に続き大東亜戦争へと戦火の拡大に、除隊はいつのころになるかも知れない不安な世情の中で貰えた、僅かな休暇を

「若しも俺が戦死をしたときは、終生俺の妻でいて欲しい」と言い残して戦地へ行きました。その時、私は25歳でした。戦後は夫の言い残した言葉を守りとおし、再婚は考えませんでした。幸いにも良い養子を縁

者の家より迎え、二人の孫も立派に成人する幸せな日々を過ごせるようになりました。平成28年には戦地巡礼の旅にも参加し、サイパン島で夫の霊にも再会してきました。これで何か、私の人生にも一区切りできたよう、自分なりに我が生涯を振り返る



句集「風舞台」

この拙い初句集をサイパン島に眠る夫と、その戦友の方々へ捧げたいと思っております。亡きひとへ土産ひとつ初句集片足で生きて百年首の花ゆく秋に眉毛一本さらわれる

「句集(昭和63年1月1日)より抜粋」

あじあいなみ

和気あいあいの中、奉仕作業

甲賀市遺族会 北田 潤子

平成29年11月30日、甲賀市5町の女性部7人で矢川神社の奉仕作業をさせていただきました。宮司さんは有り難いことと喜んでおられました。良いお天気に恵まれ、晩秋の心地よい空気を吸って、境内の草引きの奉仕作業は気持ちよくできました。草引きは皆さんベテランです。あつという間に予定の時間がきたので、終了しました。



奉仕作業を終えて記念撮影

各々お母さんは「きれいなお花がありがとう」と喜んでいただきました。相手の気持ちになりました。

「来年は靖國神社に参和気あいあいの中、



境内で和気あいあいと奉仕作業をする女性部の皆さん

去る1月24日、守山市遺族会として標記参拝を実施しました。昨年ちょうどこの時期に初めて実施したところ、大変好評で、50人もの参加者があり、「またぜひ続けて欲しい」と要望があり、本年も実施しました。日程は次のとおりです。

守山市役所午前8時40分→市内各所→護國神社(お祓い、参拝、玉串奉奠)→英霊顕彰館見学→社務所で昼食→多賀大社参拝→金剛輪寺参拝→市内各所→守山市役所午後5時

金剛輪寺はほぼ本殿近くまでバスで行くことができましたが、あと少しの石の階段は厳しく、手すりを持ちながらの参詣でした。これは疲れま

滋賀県護國神社新春参拝と英霊顕彰館見学等

守山市遺族会 会長 山川 芳志郎

去る1月24日、守山市遺族会として個人負担参拝を実施しました。昨年も屋根から落ちた雪が残っていました。大社では境内の日陰になる場所は一面雪景色が残っていました。



英霊への感謝と家内安全を祈願

靖國参拝応募作品

短歌

磯崎 啓・選

今年も滋賀県遺族会靖國神社昇殿参拝の旅「俳句・短歌」を募集したところ、皆さんから感動の作品を寄せていただきました。前年に引き続き、俳句・短歌の選者から添削と講評を受け、今回掲載します。(今回、短歌の講評はありません) (広報委員会)

母言えりわれに代つて長生きし二人で詣れ靖國神社
靖國の遊就館の父の写真ひびきに見ぬ昔なつかし
(高島市) 篠原 定雄

亡き叔父が呼び寄せくれしかこの春の九段の桜いま咲かんとす
生まれ来て十六日目に戦死せし父を語る人に息のむ
(大津市) 田中 洋子

父偲び靖國へゆく車窓にて絶景の富士見つ涙す
(長浜市) 西村 幸子

歌にうたう九段の坂は今ここに叔父のみたまよすらかにあれ
いくたびか語りていたる合言葉靖國に逢わん桜咲く日に
(愛荘町) 廣瀬夫早子

俳句

寺村 しげる・選

花の日々御霊となりし父しのぶ
英霊のいしずえありて花の首都
(長浜市) 西村 幸子

春詣墨絵ほかしのバスの旅
富士の山見えつ隠れつ春の旅
(長浜市) 田齊傳長子

父の待つ花の靖國へ参拝す
父偲び木漏れ日の道あたたかし
(長浜市) 山根富士子

霞む富士クルーズ船上みずしぶき
靖國の英霊偲び花仰ぐ
(愛荘町) 廣瀬夫早子

伴せね神と祀られしお父さん御霊の前でしばし語りぬ
父の顔知らずに傘寿越えて来ぬ見守りくださいもう少しの間
(長浜市) 山根富士子

年に一度父に合いに靖國へいそぐわが足や弱り来ぬ
いく度か母と語りし父の顔眼に浮びくる涙しながら
(愛荘町) 前田 いそ

青天に映えし社や靖國の御霊に向い幸せ願う
(大津市) 奥村 和之

靖國の桜花に宿る英霊と語りて和む遺児の手に杖
わが国の礎築きし英霊に向いて日々の平和を祈る
(東近江市) 西村 良三

春風や父偲ぶ子にやさしくて
募りゆく父への思ひ花の日々
(愛荘町) 前田 いそ

花仰ぎ逢いに来たよと九段坂
遠霞む富士を後にし靖國へ
(近江八幡市) 廣田 彦一

靖國の一枝の花に父偲ぶ
(東近江市) 西村 良三

靖國に平和を誓ふ春詣
春詣平和へ思い新たにす
(竜王町) 堀井平次郎

歓声のあがる車窓の春の富士
(大津市) 奥村 和之

平成30年度 滋賀県戦没者英霊塔月並法要の各都市参列計画

(毎月15日：午前10時集合、10時30分から15分～20分間周辺を清掃する)

年月	参列予定都市	年月	参列予定都市
4月	湖南市	10月	愛知県
5月	甲賀市	11月	彦根市
6月	近江八幡市	12月	長浜市
7月	東近江市	1月	米原市
8月	—	2月	犬上郡
9月	蒲生郡	3月	大津市

【評】靖國神社へ春頭の旅、ごころうさまでした。父を偲び、今日の平和の礎となつてくださった英霊を思い、決して戦争を起こしてはならないという決意の旅でした。

俳句への作品の応募が、昨年と比べ少なかったのは残念でした。常時俳句に親しんでおられる方ばかりではないので、季節が入っていない句や、定型五・七・五をはみ出した句がありました。少し添削を加え、俳句の型に整えました。お許しいただきたいと思います。